

令和6年度第2回豊川市給食センター運営委員会議事概要

- 1 開催日時 令和6年11月14日（木曜日）
午前10時30分から午後12時
- 2 開催場所 豊川市南部学校給食センター会議室
- 3 出席者

（1）委員

会長 大江 孝一
委員 中尾 康宏
委員 星川 敏成
委員 安藤 孝枝
委員 菅沼 由貴子
委員 河本 実津代

（2）事務局

教育部長 高橋 純司
教育部次長 酒井 保吏
学校給食課長 吉田 信
学校給食センター所長 大茂 陽一
南部学校給食センター所長 近藤 貴宏
学校給食係長 中村 貴之
栄養教諭 古林 郁子
栄養教諭 正木 聖子

- 4 傍聴者 3名

5 議題

- （1）令和7年度の学校給食献立について
- （2）令和7年度学校給食材料費の必要額（案）について
- （3）その他

6 議事の内容

○会議の成立

委員9人のうち6人出席により豊川市給食センター条例施行規則第4条第2項の規定の定足数に達し、本会が成立をしていることを報告

○会長あいさつ

大江教育長あいさつ

- ・国内では10月27日に衆議院選挙があり、政権に変化があった。このことにより子ども未来戦略に影響があるかもしれない。またアメリカではトランプ政権が誕生した。さらなる物価上昇が懸念されている。国内情勢や国外情勢に注視しながら学校給食材料費の必要額などの確保に努めていきたい。ご

協力をお願いしたい。

○議事の内容

会 長 議題（１）令和７年度の学校給食献立についてから審議に入ります。

それでは事務局説明をお願いいたします。

事務局より議題（１）「令和７年度の学校給食献立について」を説明

説明中、欠席された委員の意見を紹介

- ・令和７年度の献立の説明だけでなく令和６年度の献立の改善点も明記したほうがよいのでは。

事務局 この意見があり、資料に令和６年度の献立の改善点を明記しました。

- ・次に献立作成における具体的な取り組みは喫食状況の把握や意見招集からわかってきた内容でしょうか。具体的な改善点は２つだけではないと思いますが、もう少し多く記述されてもいいように思います。せっかくの改善なので喫食状況やアンケートの結果などからわかってきてことを示していただくと献立の改善に積極的に取り組んでいることがさらにわかりやすいと思います。

事務局 この意見につきましては、献立については検食簿による意見を取りまとめたり、栄養教諭が学校現場の声で聞いたもの、残食量や各センターの調理員さんの反省をもちより、毎月栄養教諭で献立反省会を実施しております。その際に、協議検討をして変更すべき献立は変更して毎月１から８献立について変更していますが主に材料の分量の変更が多く、これを掲載すると膨大な数になってしまうため重点的な２例に絞って紹介させていただきました。

会 長 これまでの説明でご質疑がありましたらご発言ください。

委 員 牛乳にココア糖を入れたら残乳が減ったと用務員から聞いている。（紙パックに変更されて）特に問題なく飲めていた。ぜひ続けてほしい。カレーが小中学校で味を変えていることに驚いた。辛くなったけど自分にはちょうどよく食べやすい。ひとつお願いがあります。麺類を増やしてもらえるとありがたいとの声が周囲からあった。しかし週４回は米飯ということで厳しいということを理解した。

委 員 フルーツは給食で初物の時期がわかる。旬が分かりにくくなっているし家庭でもあまり教えていない金額が高くなるが頑張って続けてほしい。

委 員 今、第3次豊川市健康づくり計画を策定している。そのなかで残食の軽減を検討している。残食についてどのように指導しているか。体格によって食べる量がちがうので人によって指導が変わる。小さい子は食べきるのにかなり苦労していると聞いた。残食への取り組みについてお聞きたい。

委 員 給食だよりや献立表で基本方針を説明している。中学校は朝、その日を献立を放送で紹介している。(小学校は給食の前)低学年は配膳時に量を調整したりしている。中学年以上は自分の食べることのできる量を理解しているが、低学年は少なめにして後から追加する。今は残食を減らすために世の中には食べられない子もいるから食べようねと働きかけをしている。ただし無理やりにはしていない。

事務局 また「けんちんしのだ」、「ひじき」など食べ慣れないものは残食が増える。食べ慣れてくる4年～6年生は残食が減ってくる傾向がある。身長と体重から量を決まってくる。体調によっては食べきれないときもある。しかし今は無理やり食べさせる指導はやっていないので残食はでてもしかたないと考えている。

委 員 中には低学年のクラスに高学年が食缶をもって残食をもらってくることもあるほど。

委 員 献立の工夫への努力には驚いた。特には献立の出す日付まで考えていることに驚いた。

議 長 そのような保護者の声もあるので今後も献立については努力をしていただきたい。

事務局 欠席された委員からその他の意見もいただいておりますのでご紹介させていただきます。

- ・1年間の献立の作成は苦労され作られていることがわかりました。さらに献立名も工夫されていて食べてみたいというと思う期待感が促すことでできていると感じました。

事務局 今後も努力をしていきたいと考えています。

委 員 献立について様々な努力をされていることがわかりました。出す食材や

出す日付など。これには驚きました。

議 長 出す食材についても各学習過程とも連動していることなど私も積極的に紹介していきたいと思います。

議 長 それでは議題（１）については終了させていただきます。それでは議題（２）の令和７年度学校給食材料費の必要額（案）について事務局説明をお願いいたします。

事務局 議題（２）令和７年度学校給食材料費の必要額（案）について説明

委 員 東三河４市の学校給食材料費が記載されていますがそれぞれ各市で異なっております。これはどういうことでしょうか。たとえば街場だと野菜が高いとか、そうでないところは安いからとかそういうことが影響しているのでしょうか。どうしてこのような差がでるのでしょうか。献立の立て方の影響もあると思いますが。

事務局 大体そのようなお考えで間違いないと思います。農産物が地域で大量に生産されているものを使用している等でも違いがある。豊川市では最適な献立を栄養教諭に作ってもらっているが、冒頭教育長のあいさつでもありましたが、物価高騰の影響は大きい。

事務局 本議題についても欠席された委員より意見をいただいております。

- ・材料費の必要額（案）についてですがとてもわかりやすい資料だと思います。先の改定から経年的変化がわかりやすく納得しやすいと思います。保護者負担も値上げせずに値上がり分を公費で負担することにも賛成です。また金額も妥当です。このように給食の必要材料費を把握しておくことは給食の質を落とさないという献立作成はの基本を進めることが重要です。
- ・（５）のアンケート結果ですが経年でみることが出来る棒グラフでもよかったのではないかと思います。すべての児童生徒が「おいしい」ということはありえないと考えています。おいしさはその人固有のもので、おいしくないがあってもよいと思います。ただ、経年でみていくとその違いがわかります。そう変わらなければよしとし、徐々においしくないが増えているならその原因を探らねばなりません。児童生徒のアンケートの結果を大事に捉える姿勢にも配慮していきたいですね。

事務局 貴重なご意見ありがとうございました。

本日お配りしたアンケートの棒グラフをご覧ください。小学生も中学生も「おいしくない」については大きな変化はありません。ただし今後も注視する必要があります。

委員 保護者としては（保護者負担額）は安く感じる。今後も継続してください。

議長 それでは議題（３）のその他について事務局説明をお願いします。

事務局 牛乳パックのリサイクルについて説明

※ゼロカーボンシティ宣言や学校給食課から牛乳パックリサイクルの推進や推進方法などを説明した。

委員 学校によって規模が違う。大規模な学校で設備が整っていない学校は難しい。同時に開始するのではなく、例えば小学４年でゴミのことを学ぶ。それに絡めてリサイクルしてみる、または５年生が環境について学んでいる際にリサイクルをしてみるなど体験してできると感じたら継続してみるなどだんだん取り組んでいくのがよいのでは。同時にスタートというのは物理的、時間的、アレルギーの問題があるので同時に一斉に取り組むということは困難であると学校給食課長にもお伝えしているところです。

委員 中学校はクラス数も多く、またクラスの人数が３０人から４０人が多い。設備も小学校よりよくない。また日課が１回５０分で１日６回あるので給食時間が３５分と給食時間も短い。これを行うにはかなり難しい。（リサイクル行う時間を設けることで）さらに残食が増えることになる。

委員 児童生徒や先生がリサイクルするのではなく、地域のボランティアに頼むとかセンターで洗浄に対応するなどしないとゼロカーボンシティは達成できないのではないかな。

事務局 貴重なご意見、ありがとうございます。しかし私どもとしてもできること、できないことがありますので、現場がやりやすい状況ができるようにいろいろと努力していきます。

議長 本日の議題はすべて終了いたしました。この他にも何か意見はありますか。

議 長 ないようですので閉会とさせていただきます。